情報連絡員報告総括表（令和8年10月期）

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・原材料費、エネルギー費、包装資材費等の高騰により、引き続き厳しい経営環境にある。味噌製造業では、令和7年産米に比べて令和8年産米を比較的落ち着いた価格で買い付けたものの、その後の市場価格下落により、買い付け価格との逆転が生じている。また、醤油・味噌ともに販売数量が減少傾向にあり、コスト上昇分の価格転嫁も難しく、収益確保が課題となっている。
	パン製造業	↗	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	・売上は、価格転嫁を一部おこない、気温的に下がった為、のびた。 ・原材料の値上げ及び電気代、ガソリンその他経費が上がっている為、実質よくない。 ・最低賃金が上がり、給与の支払いが多くなる。
	処理牛乳・乳飲料製造業	↘	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
繊維工業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	↗	↗	→	・原材料費・エネルギーコスト（電気代等）の高騰、人件費（賃上げ）、物流費の増加。 ・コスト上昇幅に対して販売単価の引き上げが追いついておらず、利益率を圧迫。 ・ 12月は繁忙期で稼働が高まる企業がある一方、年明け以降の受注見通しには強い透明感・不透明感が漂っている。
	絹人繊織物製造業	↘	↗	→	↘	↘	↘	→	→	↘	・化合繊織物並びに絹織物の城端産地の状況は大差なし。 ・円安による原材料費の高騰や諸経費の値上がりが続いており、収益が圧迫される状況。 ・設備の改修や入れ替えをしたくても機械を製造しているところが無く、苦慮している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・イラン戦争の影響は相変らず、影を落としている。加工品の出荷が滞っている状況で新規商売が進んでいない。受注が先細りしそうな様子である。

木材・木製品	一般製材業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・9月の新設住宅着工戸数は、全国で前年同月比2.7%減、県内で同7.1%減となり、ともに減少に転じた。 ・令和8年4月以降続いていた、前年の建築基準法改正に伴う需要減の反動増は5か月で一服し、一昨年度9月と比較すると着工戸数は約27%減となっている。このため、木材関係事業者や住宅事業者を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況にある。 ・また、9月の着工戸数減少については、8月の政策金利引上げの影響により、消費者の住宅取得意欲が一段と低下したことが要因の一つとみられている。 ・プレカット工場の稼働状況については、大手ビルダーからの受注は堅調に推移しているものの、地元工務店からの受注は伸び悩み、減少傾向が続いている。加えて、人材不足による生産制約や価格転嫁の難しさに加え、資材費、電気料金、人件費、運賃等の上昇もあり、収益環境は厳しい状況が続いている。 ・ロシア材を取り扱う木材関連事業者においては、産地価格の上昇分を販売価格へ十分に転嫁できない状況が続いており、収益を圧迫している。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・最低賃金の引き上げにより経営が悪化している。
業種 ＼ 項目		売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況		組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
印刷	印刷業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→		・売上高、収益状況等、業況は各社様々。資材(用紙)の値上がりは11月中の出荷分から概ね開始されてる模様。10月末高岡地区にて江戸末期創業の老舗印刷会社が倒産。負債総額2億3千万円。ペーパーレス化の流れには抗えないが、印刷に繋がる付帯サービスの拡充が必至。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→		・原材料価格の上昇が続いており、価格転嫁にも限界がある。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→		・令和8年10月の県全体の出荷数量は、59,280㎥で、前年同月比約92%と前年実績を下回った. ・地区別では、富山地区が前年同月比100.9%と前年実績を上回ったが、新川地区が前年同月比94.0%、高岡地区が同85.2%、砺波地区が同81.9%と前年実績を下回った。
	コンクリート製品製造業	↘	↘	↗	→	↘	→	↘	↘	↘		・特になし。
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→		・県内の公共民間とも土木建築工事が活発化しており、トラック等の不足や骨材の不足の話がよく聞かれる。骨材需要については堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
鉄鋼・金属	銑鉄鋳物製造業	→	→	→	→	→	→	↗	↘	→	・人材の確保や定着に苦慮している企業が多く、人手不足への対応が引き続き課題となっている。 ・購入資材等の価格上昇が続く中、製品・サービス価格への転嫁が十分に進んでおらず、収益確保に苦慮している企業が見受けられる。 ・最近のサイバー攻撃に関する報道等を受け、サイバーセキュリティに対する不安が高まっている。
	銅・同合金鋳物製造業	→	→	→	↘	↘	→	→	→	↘	・地金価格高騰の長期化により、これまでにない短いスパンで価格改定をせざるを得ない状況になっている。
	アルミニウム製品製造業	→	→	↗	→	→	↘	↘	↘	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・令和8年度下期に入ったが、団地組合員の操業・業績状況は全体として上期からの好調さが続いている。 ・県内製造業においては、機械、電気電子、自動車、製薬、金属は生産が忙しく、そのため求人倍率も高止まりが続いているとのことで、当団地でも人手不足な状況は継続している。 ・10月より最低賃金が引き上げられたが、当団地組合員からは今回の改定による経営への影響は余り聞かれない。
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	→	↘	↗	・取引先からの製品の入荷が増加傾向で、売上高も増加傾向。 ・増収と販売単価の値上げにより、収益状況も好転している。

一　般　機　器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	→	→	→	↘	→	○受注状況・・・・・対前年同月比116.44% ・受注状況は、前年同月比増加。半導体関連や産業機械関連を中心に受注は回復しているものの、原材料価格、電気料金、物流費、人件費などの上昇が収益を圧迫している。 ・現状特に人材不足（退職者増加）や熟練技術者の確保、技能承継等が引き続き経営上の課題となっている。
	金属加工機械製造業	↗	→	→	→	↗	↗	↗	↘	↗	・特になし。
	鋳鍛造金型・プレス金型製造業製造業	↘	↘	→	→	↘	→	↘	→	→	・自動車関連以外の金型企業は部品加工も含めて次第に復調の気配が見えつつある。それに比べ自動車関連企業は前年度売上げ比率30%～50%ダウンの所が多く見られる。特に従業員20人未満の企業が大半を占めている。
電　気　機　器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	↗	↗	・半導体製造装置向け部品の受注は高位で推移している。 ・自動車向け部品は計画通りの推移で引き続きハイブリッド車向けに受注増加の傾向がある。 ・民生向け部品にも一部受注増加が見られる。 ・タングステンの価格高騰が継続している。
輸　送　機　器	自動車部分品・附属品製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	セメント卸売業	↘	→	→	→	→	→		→	→	・10月の袋セメント取扱数量は計画数量比85.4%と計画を大幅に下回った。また、前年同月比も78.5%と、前年を大きく下回る結果となった。4～10月累計では前年同月比92.8%となっている。10月は前月に引き続き天候に恵まれ、ダム関連工事・震災関連の法面工事など官公需関連の工事は本格的に稼働している。しかし、こうした工事の進捗にもかかわらず、袋セメントの取扱数量は前年を大幅に下回った。その要因として、物流業者を確保できている一部の組合員に販売が集中する一方、その他の組合員は物流や人手不足の問題から、発注があっても受注に対応できない状況となっていることが挙げられる。今後もこの状況が続けば袋セメント取扱数量がさらに減少する懸念がある。一方、その他の工事では、東海北陸自動車道の4車線化や橋梁工事が本格化しつつあり、今後数年間に渡って工事の発注が見込まれる。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	・銅、アルミ、亜鉛、鉄、その他原材料のすべてが高騰、燃料費、副資材費、そして人件費と原価にかかるすべてが上昇している中、価格転嫁しても高岡銅器業界が製造するものは必需品ではないため需要が減るだけ。同じ用途であれば、他産地の異素材の商品にスイッチしてしまう。現状、需要は劇的に減っており、一つは高岡銅器である必然性のある商品の開発、もう一つは高騰した価格でも価値を認めて購入してくれる市場と販路を模索している。 10月に開催された「ツギノテ」では、ものづくりに関心を持ち、高岡への移住を検討する方々を対象としたツアーも行われた。他産地からの出展者も多く、高岡銅器をはじめとする地域の伝統産業の担い手と交流する機会となった。こうした交流が、将来の担い手の確保や、産地・業種を越えた横のつながり、新たな協業へと発展することが期待される。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売り上げが伸びず全体としては、依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	→	↗	↘	↘	↘		→	↘	・資材の高騰により経費が増。牛肉が昨年の年末より高くなり利益が減少。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	・10月の卸売市場は、入荷数量が106%、kg単価が103%で、売上が109%となった。 ・10月の組合員の取扱高は、昨年対比94%であった。4～10月累計で昨年対比95%であった。
	家庭用電気機械器具小売業	↗	→	→	→	↗	→		→	↗	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・組合員（SS）をめぐる状況は、カーボンニュートラルの進展に伴うガソリン等の需要減が見込まれることや大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、基本的に経営環境が厳しい。原油価格は本年2月の米国・イラン戦争勃発以降、上昇と小康状態を繰り返している。米国の中間選挙前までに戦局が終結する期待もあったが、結局、それも実現せず、依然として先行き不透明なままである。国による緊急的激変緩和措置（いわゆるガソリン補助金）による補助金額は7月にはLあたり数円程度までに縮小したものの、直近では50円超となっている。そのようななか、10月末には、12月以降段階的に補助金を縮小する（基準単価を引上げる）方針が示された。今後、小売段階で適切に価格転嫁できるのか、懸念がある。 ・県内ではもともと需要の回復感が弱く、また、一般消費者の節約志向もあってか、ガソリン販売量は減少が続いている。 ・販売価格はイラン情勢の緊迫化を受けて3月中旬に急騰したものの、国による緊急的激変緩和措置により下落し、その後、落ち着いている。10月26日現在、9月28日との比較で1Lあたりレギュラーガソリン及びハイオクガソリンが各々0.1円の微減、軽油が0.1円の微増となっている。

	スポーツ用品小売業	↗	↗	→	→	→	↘		→	↘	・地域商品券やキャッシュレスのブランドの還元キャンペーンなどの競争で、消費者の購買が活性化した。ブラックフライデー前に各ブランドが対抗策を前倒ししたと推測される。
	ショッピングセンター	↗	→	↗	→	↘	→		→	↘	・今月の売上増は、11月から値上がりとの報道が多く、買いだめが多かったためか。

業種 ＼ 項目		売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・紅葉を楽しみに訪れる観光客、隣接百貨店での食に関するイベント、この時期限定ポイント還元キャンペーンの後押しなど、飲食店や最寄り品店は賑わっていた。ブランド品を扱う洋服店では東南アジアからの来店者が目立った。
	商店街	→	↗	→	↘	↘	→		↘	↘	・物価高騰により買い控えがあり。 ・週末の夜がにぎわい（飲食店）始めている様子。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	飲食業	→		↗	→	→	→		→	→	・売上げは横ばい。毎月色々な物が値上がりする中、米の価格が下がったのが朗報。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・10月の自動車新車新規登録・届出台数（登録車と軽自動車の合計）は、多少の増減はあるものの、概ね前年並みである。 ・油脂類の「供給の目詰まり」は改善傾向にあるが、まだまだ平常通りでは無い。中東情勢等の影響による価格高騰は続いており、顧客への価格転嫁が困難な状況にある。

建設業	鉄骨・鉄筋工事業	↘		↘	→	↘	↘		→	→	・先月と変わりなく、大手ファブは見積も増えており、中小ファブとの格差は拡がる一方である。鋼材メーカーの値上げは続いており、鋼材単価に左右されるのは、殆ど中小地場物件であり、益々大手ファブと中小ファブとの格差が顕著になってくると思われる。
	一般土木建築工事業	→		→	→	→	→		→	→	・一部地域で公共工事の発注量が薄い。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・給水装置工事配管技能検定会を10月8日開催し、27名が受験した。 ・各単組において、水道事業体へ新年度予算確保に向けた要望活動を実施。 ・国土交通省と水道ウォーターPPP政策について意見交換を実施。
	電気工事業	↘		↗	→	→	→		→	↘	・公共工事が順調も、資材価格高騰により民間設備投資が停滞傾向。金利上昇により住宅着工も減少している。エアコン需要も落ち着き、工事量が下降気味。
運輸業	道路貨物運送業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	道路貨物運送業	→		→	→	→	→		→	→	燃料価格は前年同月比＋6.0円/Lと高め。 物量は前年同月比99.8%と平年並みであった。